

## 自立の手助けに意欲

「授産施設は、もっと仕事をもらう努力をすべき」と語る金谷さん



富岡市に知的障害者授産施設を開設

金谷 透さん(52)

＝足利市福屋町

あす一日、富岡市後援に知

的障害者授産施設、水士舎すいどしや)を開設、施設長に就く、十年ほど前から新里村で行ってきたハム、ソーセージの製造を水士舎が引き継

ぎ、新里村の会社は農業・販

売を担当する。「毎年、欧州に行き、技術を学んできた。ドイツのマイスター(名人)を招き、徹底的に指導してもらった」という。

新里村でも知的障害者四人を雇い、本場の技術を伝授してきた。「不慣れで仕事がないと嘆いても何も解決しない。授産施設はもっと仕事を

もらう努力をすべき」と強調。

香辛料から工程の細部まで欧州の一流品の製法を忠実に再現し、都内の有名デパートなどに納入してきた実績が自信を裏付けている。

水士舎の定員は三十人、障害者の職員十人がともに働く。富岡市に縁はなかったが、巨栗富岡地域は他に授産施設がないため、県の担当者に勧められた。

建物は木造平屋建てで、面積は五百十二平方メートル。ハム、ソーセージのほか、フランスのジャムメーカーから七十二種類のレシピの提供を受け、当面はカキ、イチゴ、リンゴ、ナシの四種類の製造を試みる。

国際的な人権擁護団体が活動した経験から「先進国の障害者は人に支えられながらも自立している。利用者がプロとして働くことで能力を伸ばし、自立を果たす手助けをしていきたい」と意気込む。